

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	20222002	研究期間	平成20年度～平成24年度
研究課題名	木簡など出土文字資料積読支援システムの高次化と総合的研究拠点データベースの構築	研究代表者 (所属・職)	渡辺 晃宏（国立文化財機構奈良文化財研究所・都城発掘調査部・史料研究室長）

【平成23年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、木簡などの文字認識精度を高め、高品質な画像を蓄積して、木簡データ共用システムを開発する研究であり、いくつかの重要な進展があり研究は概ね順調である。</p> <p>例えば、文字の欠損部分の情報を付加するシステムの開発により認識率の向上を図ったこと、文化財撮影用特殊仕様レンズの開発により木簡などの撮影の効率化を図ったこと、遠隔地にいる調査者が同時に赤外線による遺物調査を行えるシステムの開発を進めたことなどが挙げられる。</p> <p>木簡以外の墨書土器・漆紙文書などの文字認識についても引き続き検討し、研究目標を達成することを期待する。</p>	

【平成25年度 検証結果】

検証結果	研究進捗評価結果どおりの研究成果が達成された。
A	<p>当初の研究目的である木簡積読システム「Mokkanshop」と文字画像データベース「木簡字典」を中心に有機的な連関をもつ多様な知識データベース群を充実させ、木簡など出土文字資料に関する研究拠点データベースを構築することに着実な進展がみられた。</p> <p>「Mokkanshop」の改良による文字認識精度の飛躍的向上のための画像処理技術の研究、文化財撮影用特殊仕様レンズの開発などの技術開発面の成果も生み出されている。</p> <p>本研究により蓄積された成果は、いずれも木簡の積読・解析の高次化を進める重要な基盤となるものであり、構築された研究拠点データベース群が出土文字資料研究に活用されることで、今後の研究の進展が図られることを期待する。</p>